

<茨城新聞ホームページ> <http://ibarakinews.jp>
 <購読申し込み> フリーダイヤル(0120)029218
 (平日午前9時~午後5時)

災害に強い町考える

子どもらブロック工作

水戸

東日本大震災を踏まえ、子どもたちに防災について考える機会にしてみらおうと、教育用レゴブロックを使って工作する「KODO EXPO 2016」(エデュソル主催)が20日、水戸市五軒町のみと文化交流プラザで開かれた。親子連れなど約250人が参加し、ブロックを使って救急車や建物を作り、災害に強い町などを考えた。

レゴブロックを教材として使用する教室を開くエデュソルが、体験授業の一環として実施した。この日は、参加者が「おなががい」を助ける「や」「こ

ま回し機を作る」などテーマごとに9グループに分かれてブロックで工作に取り組んだ。災害に強い町づくりに取り組んだグループは、海に面した町と山に面した町の2種類を想定。土砂崩れなどの災害時に、町が機能するか考えながら2班に分かれて町を作った。子どもたちは救急車や

ロープウエーなど災害時に必要な施設や乗り物をブロックで作り、建物などの配置を話し合って決めた。山に面した町づくりに取り組んだ水戸市の田中優依ちゃん(6)はコンビニエンスストアを制作し、「土砂崩れの時に」ご飯がなくなっちゃうと困るから」と話した。(成田愛)



ブロックで建物や乗り物を作る参加者＝水戸市五軒町

「息入れよう」GSで呼び掛け

境でキャンペーン 境警察署は、境町内のガソリンスタンドで交通安全キャンペーンを実施した。



境地区交通安全協会、同交通安全花の会連合

運転者に安全運転を呼び掛ける境警察署の諸沢精二署長(中央)ら。境町会、町職員ら約30人が「レッツ・ブ레이크(一息入れて)」をキャラクターフレースに事故防止を呼び掛けた。

2月17日に境町で発生した交通死亡事故以降、本県の交通事故の死者数は全国ワーストが続いている(3月22日現在)。諸沢署長は「不名着な状態を境管内から変えたい」と話した。